

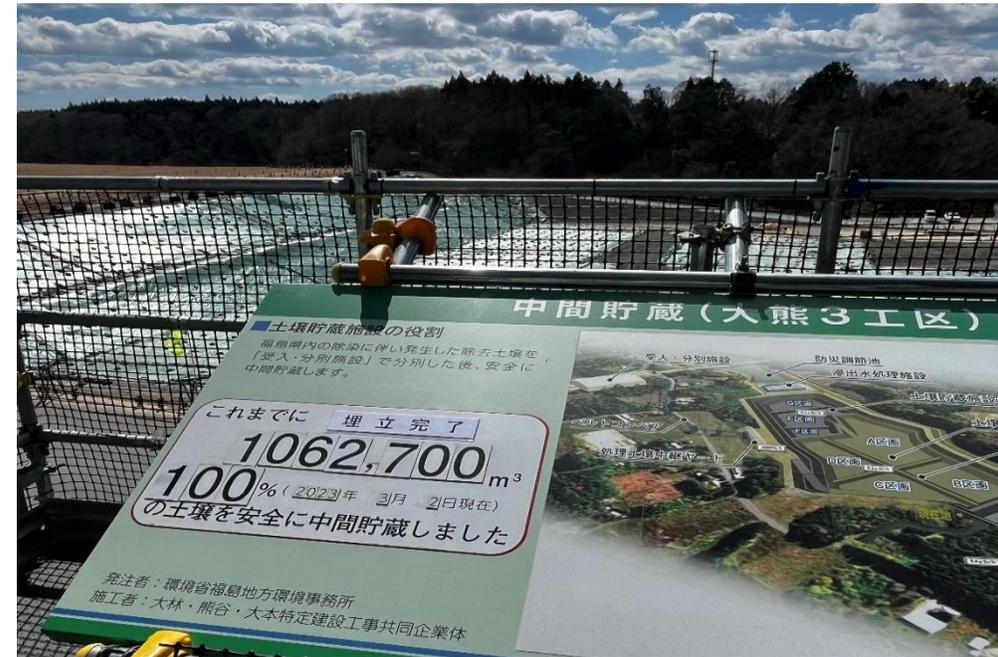
中間貯蔵施設から考える 福島は今と今後

参加理由

福島のことについて、動画サイトやネット記事から興味を持ち、実際に訪れて学びたいと思ったから。

中間貯蔵施設については、何をする施設なのか、そもそも中間貯蔵施設という名前すら訪問前は知らなかった。

中間貯蔵施設とは



- 福島県の除染に伴い発生した除去土壌や廃棄物、10万Bq/kgを越える焼却灰を貯蔵するための施設。
- 全体面積は16km²(東京ドーム約340倍の面積)

2017年から土壌の貯蔵開始



貯蔵施設へ輸送する前に仮置き場にて保管

→仮置き場だけでは保管できないため仮々置き場でも保管



中間貯蔵工事の進捗状況

中間貯蔵施設に運び込まれる除染土壌等の量
→東京ドーム約11杯分

福島県内の輸送対象市町村(52市町村)のうち46市町村からの輸送は終了している。

→帰還困難区域である飯舘村、南相馬市、浪江町、双葉町、大熊町、富岡町は輸送中

2045年3月までに除染土の最終処分を福島県外にて完了

→今現在場所は未定

除染土の再利用

中間貯蔵開始後30年以内の県外最終処分の完了に向けて、
最終処分量を低減するために可能な限り減容・再生利用

除染土から、再生利用可能濃度の土壌(8000Bq/kg)を再生利用
(農地として利用する場合は5000Bq/kg)



異物除去、濃度分別、品質調整を行い再生資材化



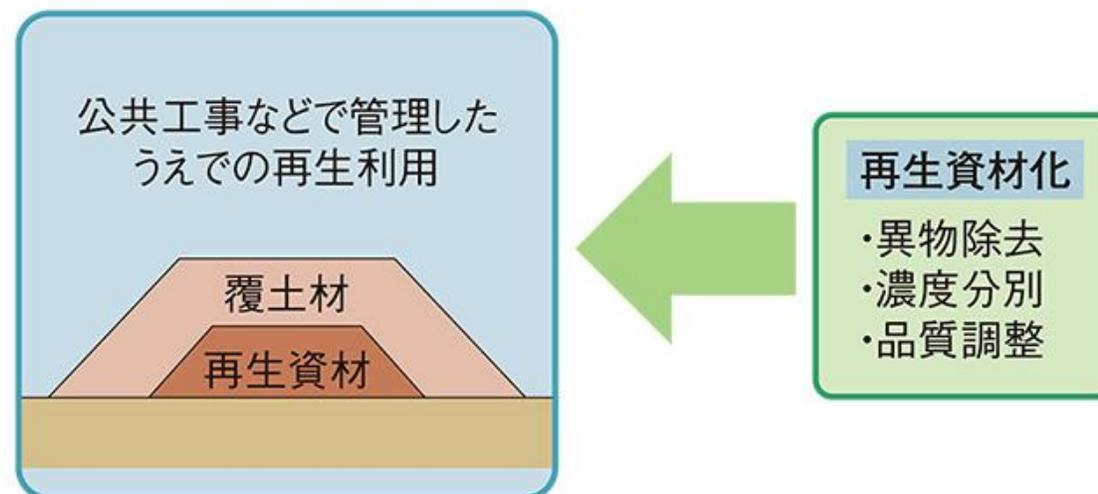
公共工事等で管理した上での再生利用

- 周辺住民や作業者の追加被ばく線量が1msv/年を越えないように覆土などによる遮へい、飛散・流出の防止等を実施
(50cmの覆土により99%以上の放射能がカットされる。)

- 除染土の利用用途の想定

- 土砂、アスファルト、コンクリート等で被覆した盛土を道路、防波堤へ利用
- 土砂で被覆し上部を農地として利用する

安全性は？



除染土の再利用・安全性

- 被覆することで95%以上の放射線がカットされる
- 実際に試験用の盛り土で栽培した作物の放射性セシウム濃度は0.1~2.5Bq/kgとなっており、一般食品における放射性セシウムの基準値100Bq/kgを大きく下回る

(肯定的な意見)

- 科学的に安全性が確認されれば良い、まちの復興・活性化に繋がる

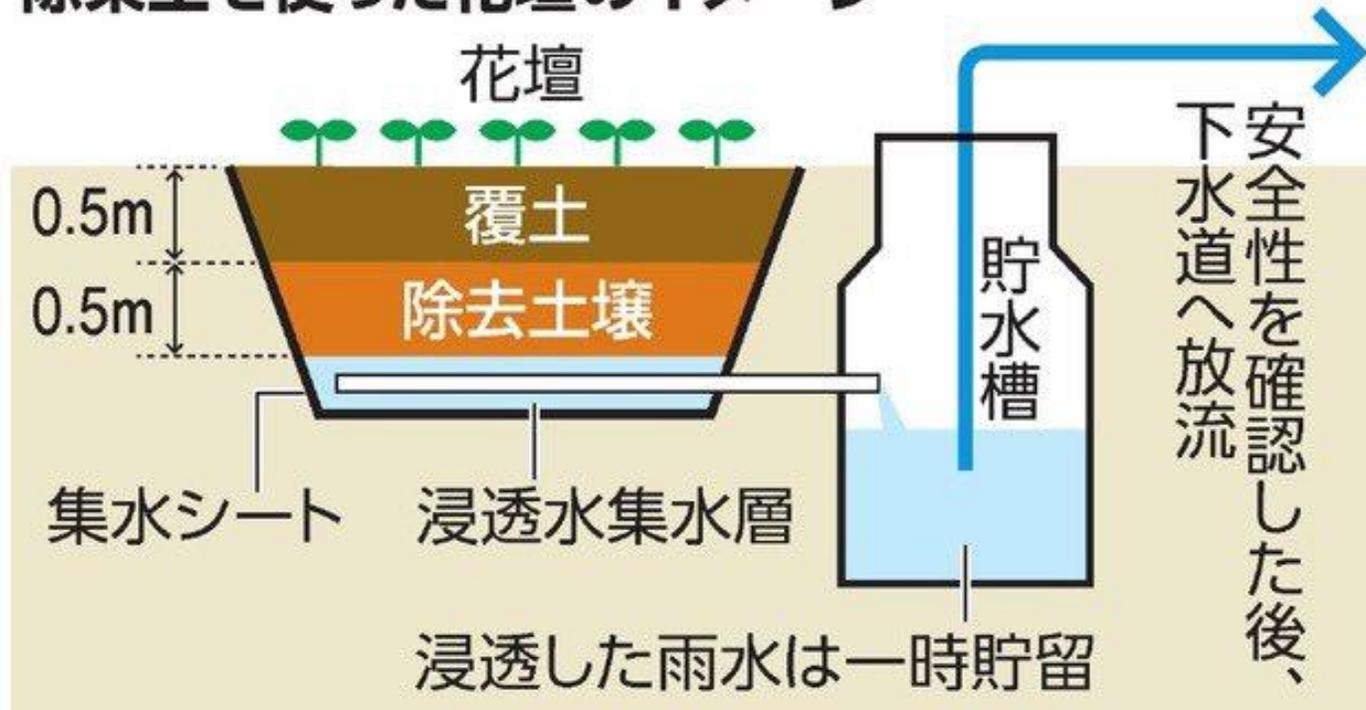
(否定的な意見)

- 安全性が理解できない、基準値5000Bq/kgは高い
- 風評被害で地価が下がる

除染土の再利用・例

新宿御苑での再利用

除染土を使った花壇のイメージ



まとめ

- 未だ除染土の輸送は完了していない。
- 最終処分地は決定していない。
- 除染土の再生利用については、理解が得られていない。

福島の大學生との交流

＜震災から12年後の福島の今＞

- モニタリングポストがある公園が普通、あることに疑問を持たないし、そもそも値の意味をよく理解していない。
- 避難訓練は多い。
- 事故があった第一号機の内部に入った。放射線の感覚は無いのに、確かに身体を蝕んでいるという事実は恐ろしい。
- 学校や地域などでの震災に関するイベントは無い。
- 被災地のことを、県外から福島の大学に学びに来る人は多い。